

学校教育目標	「明日に向かってともにのびる子」 子どもたちがお互いの良さや可能性を認め合い、自分に誇りをもって自分らしく生きられるようにします。 ○進んで学習したり、考えを交換したりできる場を大切に、ともに成長していくことができるようにします。(知) ○自分のよさや友だちのすばらしさに気づき、人とかかわりの中で、自分らしさが発揮できるようにします。(徳) ○自然とのふれ合いや人とかかわりを通して、健康な心と体を育みます。(体) ○まちを愛し、思いやりをもって進んでかかわっていく子どもを育てます。(公) ○課題解決に向けて進んで取り組み、最後までやりぬく子どもを育てます。(開)				
	創立 58 周年	学校長 赤羽 博明	副校長 柏木 佑介	2 学期制	一般学級: 7 個別支援学級: 4
学校概要	児童生徒数: 210 人 主な関係校: 新井中学校 新井小学校新井中学校桜坂分校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	新井中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<協働して課題解決する力> <自分づくりに関する力>	新井中 新井小 新井小中桜坂分校	自ら学ぶ子ども。仲間や地域とともに協働的に学ぶ子ども。 ・小中合同授業研究会等を通じ、小中の学びの実態や各教科等の課題を共有。 ・個別の支援計画の引き継ぎをはじめ、丁寧な情報交換をもとに、特別支援教育を推進。 ・地域学校共同本部と連携した「小中合同キャリア教育体験学習」等の取組の推進。 ・学校運営協議会を母体とした、地域に開かれた学校運営の協働。

中期取組目標	○子どもの思いや願いを大切にしながら、教育活動を展開し、「明日に向かってともにのびる子」の育成を目指します。 ・1年目は、事象との出会いから、子ども自ら問いを見出すなど、子どもが主体的に参加できる授業づくりに取り組みます。 ・2年目は、問題解決に向けて、仲間とともに追究するなど、協働的に学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに取り組みます。 ・3年目は、問題解決に向けて、仲間とともに追究し解決策を見出すなど、問題解決的な学習の経験を重ねることで、自己肯定感を育むことができる授業づくりに取り組みます。 ○「(地域の方も含めた)ひと・もの・こと」と豊かに関わり、子どもの思いや願いを認め合い、支え合う活動を通して、自己肯定感を高め、まちを愛する心を育てます。 ○日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①各教科において、導入を工夫し、子どもが見通しをもって学習に取り組めるようにする。また、身に付けさせたい資質・能力を踏まえた上で、生活経験を生かしたり体験的な活動を取り入れたりしながら、実感ある理解を図ることができるようにしていく。②生活科を中心に、「ひと・もの・こと」との関わりを大切に、その中で感じた思いや願いをもとに、活動を計画・実行していく。③ロイノートやデジタルドリル等を効果的に活用し、課題や学びの成果を正しく捉え、学びの充実に繋げていく。
担当	学習評価委員会	
徳	道徳教育	①子どもの実態に合わせながら、善悪を正しく判断し、社会のルールを守る規範意識や相手を尊重する心を育てるために、全教育活動を通して道徳教育・人権教育の充実を図っていく。②地域の方とのふれあいや、ペア学年との様々な活動・交流を通して、地域を愛する心、思いやり・協力する心・集団の中で役割意識、自己肯定感を育てていく。③横浜プログラムに積極的に取り組み、子どもたちの豊かな社会性を育てていく。また、YPアセスメントを活用して学級づくりや児童指導に生かしていく。
担当	人権教育推進委員会・道徳部	
体	健康教育	①子どもが主体的に学習できるように授業改善に取り組む。校内外の研修を周知し、参加できる体制づくりをする。②委員会活動を中心に、年間を通じた体力アップ集会を計画する。週に2回設定されているロング昼休みを活用し、運動機会を確保していく。③健康第一委員会の児童を中心に、課題に感じているテーマを取り上げ、年間を通して改善に向けて各クラスで取り組みを続ける。
担当	体育部	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①地域ボランティアの効果的な活用を推進し、地域の人との関わりの中から公共心や規律心、感謝の心を養う。 ②「自分づくりパスポート」の活用や、行事毎の振り返りを大切に、子どもたちが自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
担当	特別活動部	
	いじめへの対応	①ブロック研やいじめ防止対策委員会での児童の情報共有を行うとともに、認知案件への対応や未然防止のための取組について検討し、対応する。②職員会議で情報共有し、全職員で組織的かつ一貫した支援を行うとともに、児童の様子を細やかに見取ることができる体制を整える。③年2回実施する横浜市統一アンケートやY-Pアセスメントシートを活用して、児童の実態把握に努める。また、把握した情報については共有するとともに、迅速に対応する。
担当	いじめ防止対策委員会	
	人材育成・ 組織運営(働き方)	①ミドルリーダーを中心に、職員の要望に応じた研修の年間計画を年度初めに立て、授業研や実技研、職員の交流を行う。②ICTを活用することで、事務の効率化や情報の共有を図る。会議の持ち方、精選、組織の見直しなどできる所から取り組み、働き方改革につなげる。
担当	教務部	
	地域連携	①地域との連携を維持するために、Webページや学校だよりなどを活用して学校教育活動を発信する。②学習計画について、児童の意見を取り入れながら、学習応援隊の方々と内容の検討をしたり学校から新しい内容の提案を行ったりすることを通して、地域と豊かに関わり、更に自ら問いをもち問題解決に向けて仲間とともに追究し解決策を見出すような学習内容を工夫する。
担当	教務部	
	特別支援教育	①Y-Pアセスメントシートを活用して児童の実態把握に努める。支援が必要な児童について担任が特別支援教育Co.と相談し、児童の意見を取り入れながら支援策を検討し、実施していく。②支援が必要な児童に対して、児童支援専任や特別支援教育Co.、SC、SSWが中心となり、外部機関等と連携を図りながら適切な支援を行う。③特別支援教室の充実を図り、児童の意見を取り入れながら、保護者のニーズにも配慮した支援体制を整える。
担当	特別支援教育委員会	
	安全管理	①スクールサポーターや交通安全協会の協力のもと、交通安全教室や防犯教室を行い、児童の安全・防犯への意識を高めるようにする。②地域防災拠点(避難所)の機能や設備の見学・体験等を通して、大地震への備え及び避難所運営への理解を深められるようにする。③訓練では、振り返りカードを活用しながら事前・事後の指導を繰り返す。また、避難経路をどの教室にも掲示し、すばやく避難できるようにしていく。
担当	環境・安全教育委員会	
	児童指導	①級外職員も含めたブロック研、教科担任制を大切に、単級であっても「複数で児童を見ていく」という職員意識を高め、組織的に児童指導を行う体制を確立していく。②年2回実施するY-Pアセスメントを活用して、児童の実態把握に努めるとともに、適切なプログラムを確実に実施し社会的スキルを育むことにより、問題行動の未然防止を図る。
担当	児童指導委員会	